

カラス列車

私が船員時代の盛岡から宮古を経て釜石までの国鉄線（JR）は、山田線と云って、蒸気機関車が走っていた。

宮古～釜石間はトンネルが少なく、所々景色の良い海岸沿いに走るが、宮古～盛岡間は山間部で長いトンネルが多く、川沿いに線路が敷いてある。私が学校を出て、宮古の漁船に就職した時、宮古～盛岡間は不通だった。二年前台風の被害を受け復旧が遅れていた。

私が赴任した時は、花巻から遠野迄、国鉄・私鉄の軽便鉄道に乗り換え、終点仙人峠で下車、二・三時間仙人が居そうな山道を歩き、大橋で列車に乗り釜石で乗り換え、宮古に辿り着く。

それから間もなく仙人峠を迂回した花巻～釜石間の釜石線が開通し、山田線の盛岡～宮古間も復旧、休暇で生家に帰るのが便利になった。

休みの時釜石から帰る時は、釜石線で花巻に出て帰郷するが、宮古からだと言田線上りに乗り、盛岡で乗り換えた方が早い。

一度だけだったが、結婚後二人して盛岡に出て帰った事がある。盛岡～宮古間はカラス列車の異名があった。

この間はトンネルが多く、蒸気機関車は煙をムクムク吐いて走る。おまけにローカル線で客車はオンボロ、隙間だらけだから、トンネルに入ると、車内に煙が遠慮会釈なく入り込み、長いトンネルだと、口と鼻をタオルで負う人が多い。

今では電化され、昔語りになったけれど、事実だった。盛岡に着くと、我先に洗面所に走る。顔を見合わせクスクス、顔は薄黒く、鼻の下は髭を生やしたようだ。

洗面所も行列であった。私達も洗面所で顔を洗い、上り列車に乗り帰郷した事を思い出し、乗り換えに時間が無かったら、どうしたのだろうか、思いをさせた。